

QOL

サポーター新潟

No.17



新潟医療福祉大学

2008年9月16日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集

- 学長・学生部長 (健康スポーツ学科 小田切毅一教授) 対談
- 暮らしサイエンス
 - ・暮らしの中の介護保険
- 研究センター紹介
 - ・介護予防研究センター紹介
- 研究最前線
 - ・大学院生研究「大山ゼミ」紹介
- 基礎ゼミ 学生・教員交流会の紹介
 - ・理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科
 - ・義肢装具自立支援学科・健康栄養学科
 - ・健康スポーツ学科・看護学科・社会福祉学科
- 部活動紹介
 - ・レクア.コム部・学生ボランティアサークル
 - ・第5回新潟県学生ボランティアサミット開催について
- CAMPUS NEWS
- 伍桃祭案内
- 受験生のみなさんへ



キャンパスの中庭にある花壇では、本学園芸部が丹精こめて育てたひまわりなどの花々がたくさん咲きました。日ごろの手入れの甲斐もあって夏空に負けないうがい力強く育ち、人々の目を楽しませてくれています。

学長・学生部長対談

今回は、地域の方々の交流と学生指導全般について、その現状と今後の方針を、高橋学長と小田切学生部長のお二人に話し合っていました。

部長：6月15日に本学学生の住むアパートが多数ある、陽光エリアの自治会主催による新入生歓迎会が行われ、学生30人程が参加させていただきました。住民の方の中には学生たちとの交流について真剣に考えてくださる方もおられて、ゴミの分別などの生活マナーについてアドバイスをいただき、和気あいあいとした雰囲気の中で話し合うことができました。地域との交流は、受け身的な発想ではなく、積極的に取り組むのがよいとつくづく思いました。

学長：積極的な地域との交流という意味では本学の一期生が“レクア、コム”というボランティア活動を行う部活を立ちあげ、現在もボランティア活動を通し地域との交流をしています。こうしたグループの活動は地元の方々にも大変喜ばれております。今回の陽光自治会のように、地域のほうから接触する機会をつくっていただくだけでなく、大学でも積極的に接触する機会をつくっていくことが大切だと思います。今年度からは北区の地域コーディネーターの方にも御指導いただき、学生とボランティアニーズを結びつける取り組みを試行しています。学生にとっては、よいチャンスだと思いますので、学生が主体になって働きかけていけば、地域貢献につながるのではないのでしょうか。

部長：そうですね。学生委員会としても学内のボランティアグループによる地域との交流活動を奨励し、委員会から推薦するなど褒賞のようなものを考えていけたらいいなと思っています。こういうことから、学生生活でマナーを守ることや、ボランティア意識にめざめて、美化や災害ボランティ

ア、地域貢献にまで広めていくことが大切で、どこから手をつけるか、学生委員会で検討をしているところです。

学長：ボランティア活動は、保健医療福祉の総合大学である本学において、とても重要なことです。開学のころ、本学のある教員が以前勤めておられた短大で褒賞制度があることを聞きました。学生委員会でボランティア活動を認めて、履歴書の中に記入できるようにする、そういう制度をつくるのもよいことだと思います。

部長：ボランティア活動に参加することで、地域とホスピタリティマインドを感じる関係になることができますし、社会に目を向けるきっかけにもなると思います。

学長：本学はQOLサポーターの育成を目標としております。QOLというのはQuality of Life、つまり生活の質ですが、患者様や対象者の方のQOLをいかにして高めていくか、そういう力をもつ人材こそ本学が育成すべき人材です。そのような資質をどうやって高めていくかが大事で、ボランティア精神をもつということは、QOLサポーターにとってはきわめて重要なことです。いかにそういう気持ちを育てていくか。本学の教育力にかかっているのではないのでしょうか。

部長：例えばある大学には、活動参加記録を記入できるボランティアカードがあります。そういうものを持つことにより、自分もボランティアをやったんだという自覚を重ねていく。それが大事だと思いますので、本学でも導入に向け検討を

始めようと考えています。

学長：ボランティア活動の実績を自分で確認できるような仕組みがあるといいですね。

部長：また本学のカリキュラムの中には、ボランティアに関係した科目がありますので、そういう科目を選択する学生が多く出てくることを期待しています。



新潟医療福祉大学
学長
高橋 榮明



学生部長
健康スポーツ学科教授
小田切 毅一

学長：学生委員会ではボランティア活動の推進の他、禁煙教育についても取り組んでいるようですが、いま社会全体が急速に禁煙・分煙の方向に進んでいますので、本学でも平成17年度から、キャンパス内禁煙がスタートしました。本学は保健医療福祉関連の専門職になる人を育成する大学ですから、喫煙はよくないということを繰り返し言う必要はありますね。

部長：これは大変難しい問題で、学生委員



会では現在、学内の吸い殻を拾う活動を行ってしまして、学生にも参加してもらおうことで、禁煙について考えてもらいたいと思っています。

学長：そういう雰囲気づくりや、姿勢を見せることが大事なのではないのでしょうか。

部長：やはり学生には喫煙のマナーはもちろん、ゴミ出しのことなど、一市民としてちゃんとマナーを守れる人間になってもらいたいと思います。

学長：同感です。ところで新潟県学生ボランティアサミットが、9月28日に本学で開催されます。これにはボランティアグループに所属しているいろいろな人たちが参加する予定ですが、ぜひ一般の学生にも参加していただくようPRしていきたい。そしてぜひこのサミットからボランティアや地域との交流などについてのメッセージを発信していただきたいと思っています。



暮らしサイエンス

暮らしの中の介護保険

社会福祉学科 講師 渡邊敏文

平成20年の「全国都市住みよさランキング」が6月に公表されました。この調査は、東洋経済新報社が国勢調査結果などを基にして全国784都市を対象に実施したもので、今回は16回目です。この調査によると、新潟県内で最も上位だったのは長岡市で82位、次いで小千谷市が130位、柏崎市が200位、新潟市は207位でした。その評価は①安心度（病院の病床数、介護老人福祉施設の定員数など）、②利便度（大型小売店店舗面積、金融機関数など）、③快適度（公共下水道普及率など）、④富裕度（財政力指数など）、⑤住居水準充実度（持ち家世帯比率など）の5項目から評価し、ランク付けしたものです。みなさんは、「住みよさ」をどのような指標から評価しますか。高齢になってくればくるほど安心度の指標を重要視するのではないのでしょうか。そこで、今回の「暮らしサイエンス」では、高齢者の介護を支える介護保険制度について取り上げることにしました。

介護保険制度は、誰もが抱える老後の不安に対して、国民全体で支える制度として、平成12年4月よりスタートしました。介護保険の利用者は年々増加し、開始された当初は約150万人でしたが、平成19年3月現在、65歳以上の介護保険の利用者数は、約2,676万人となっています。平成18年4月には、将来にわたる介護保険制度の安定した存続と、高齢者が健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、介護予防重視のシステムに移行しました。

介護保険を利用するときの認定申請の流れは図1のようになっています。介護保険の対象となる人は年齢によって、①65歳以上の人（第1号被保険者）②40歳以上65歳未満の人（第2号被保険者）の2つ

に分かれています。それにより、保険給付の対象となる人や保険料の設定、納付方法も違います。65歳以上の介護保険料と段階（新潟市）、納付方法については、図2・3に示しました。「はい」「いいえ」でご自分の介護保険料を確認し、長寿医療制度（後期高齢者医療制度）で問題になっている納付方法についても確認してみてください。まだ65歳になっていない方も、その歳になるとどれくらいの負担が求められるのかの目安として下さい。65歳以上になると、要介護認定を受けた人は、介護サービスを利用するための情報が記載された被保険者証が交付されます。介護サービスを利用した場合には、原則9割が保険から給付され、残り1割を利用者が負担することになっています。その際は、保険料と利用料を負担することになります。

今後は、在宅福祉サービスを中心に国民の多様なニーズにどのようにして対応していくか、保険料負担やサービス受給者の範囲拡大の問題なども挙げられており、ますます要介護の高齢者が増えていく中で、いかに介護保険制度を安定的に運用していくかが課題となっています。いずれは、誰でも高齢になり介護を必要とする日がやってきます。そのときになっても、安心して地域で暮らせるためには、この介護保険制度の充実が欠かせません。現在、介護保険を利用している人も、まだ利用していない人も関心を持ち続けていきたいものです。

尚、図1～3は、新潟市高齢介護課が平成20年4月に発行した「介護保険サービスガイド」を基に、筆者が加筆作成したものです。

図1 介護保険を利用するときの認定申請の流れ

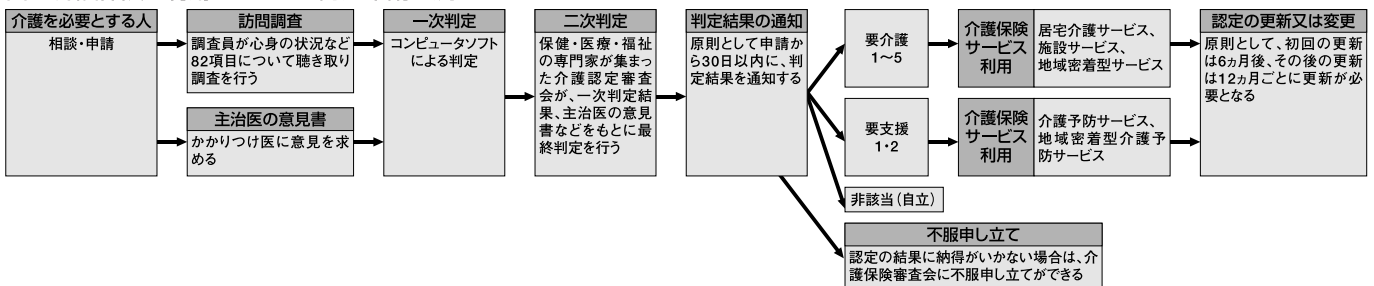
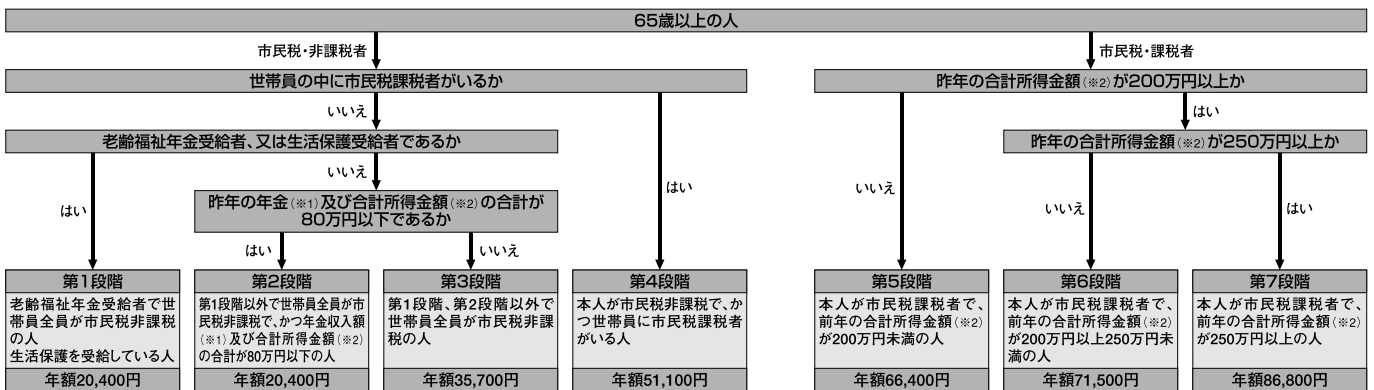
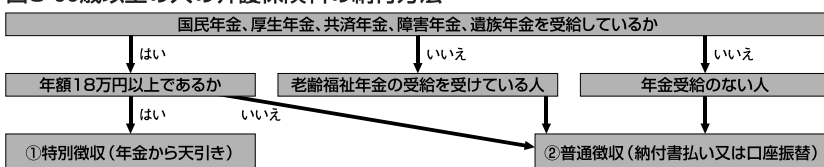


図2 平成20年度 介護保険料と段階（新潟市65歳以上の人の場合）



(※1) 年金収入額には遺族年金、障害年金等の非課税年金は含まれません。(※2) 合計所得金額とは、税法上の各種所得控除前の所得金額で、実際の収入とは異なります。

図3 65歳以上の人の介護保険料の納付方法



研究センター紹介

介護予防研究センター紹介

センター長 村山伸子

介護予防研究センターは、平成18年にスタートした介護予防制度の開始にあわせて、平成17年10月に設立されました。本学の理学療法、作業療法、言語聴覚、看護、健康栄養、社会福祉の6学科の教員とリハビリテーションの現場のスタッフ、他大学の教員がメンバーとなっており、介護予防について多角的に実践的な研究をすすめてきました。

●活動目的

介護予防に関する研究と対策の開発

●活動内容

介護予防に関する調査、研修会、評価ソフトやシステム開発、効果的なプログラムや事業の開発

平成17年11月

ケアマネージャーに対する 介護予防事業への意識調査

県内のケアマネージャーが、平成18年度に施行される介護予防事業にどのような不安を感じているかを調査することを目的として意識調査をおこなった。対象は、新潟県主催のケアマネージャー研修会に参加したケアマネージャー171名。不安がない人は、6名のみで、ほとんどの人が不安を抱えていることがわかった。不安の内容としては、新予防給付、地域支援事業の各事業の内容、利用者評価、事業評価、各プログラムの進め方などに不安をもつ人が多かった。ケアマネージャーは介護福祉士が多いことから、各専門プログラムの内容への不安が大きかったと考えられた。

平成18年3月

介護予防実践セミナー実施

平成17年のケアマネージャーへの意識調査結果をふまえて、介護予防実践セミナーを新潟医療福祉大学で開催し、参加者は251名であった。介護予防プログラムの実際と評価について、「口腔プログラム」本学言語聴覚学科の今井信行氏、「栄養プログラム」在宅チーム医療栄養管理研究会の園佐藤悦子氏、「運動器プログラム」本学理学療法学科の小林量作氏の各専門家より、具体的に講習をおこなった。

平成18年度～19年度

介護予防事業のアセスメントと 評価をパソコンでおこなう 「元気づくりソフト」を開発

「元気づくりソフト」は、介護予防のプログラムについて、個人の評価と事業評価をおこない、効果的なプログラムのあり方を検討することを目的として開発された。現在、自治体や事業所等で展開している。

平成20年7月

介護予防システム研修会実施



平成18年の介護予防実践セミナーでは、個別プログラムについてのセミナーを実施した。しかし現場では個別プログラムは実践されてきているが、介護予防の全体のシステム化は充分ではない。そこで平成20年は、介護予防システムのあり方について研修会をおこなうこととした。本研修会は、クロスバール新潟で開催した。参加者45名（50名定員）。基調講演「効果をあげるための介護予防システム」本学看護学科 石原美由紀氏、実践報告「特定高齢者施策を中心とした事業評価システム作り」にむけて」長岡市介護保険課介護予防推進室の曾根玲子氏、「地域包括支援センターの機能充実を目指したシステムづくり」長岡市基幹型地域包括支援センターなかじまの井波靖子氏、「対象者の実態と対象把握のあり方」魚沼市地域包括支援センターの下村春美氏。

その後のディスカッションでも活発な議論がおこなわれた。①特定高齢者については対象者の把握が困難、②対象者であっても介護予防プログラムの希望者が少ない、③介護予防プログラムだけでなく、一般高齢者の事業を含めて地域全体で支援する体制が有効なのではないか、という意見がだされ、課題と多様な解決策の必要性が問題提起された。

研究最前線

大学院生研究「大山ゼミ」紹介

医療福祉学研究科 保健学専攻 作業療法学分野 1年 田畑 智

現在、作業療法学分野の大山ゼミでは博士後期課程1名、修士課程6名で研究を行っております。ゼミ生は病院勤務終了後に文献抄読会や実験を行っております。抄読会では、先行研究を知る他に、実験方法や統計・分析結果の解釈を通して、ゼミ生の研究課題を科学的に証明するための論理的な思考を学ぶ場でもあります。また、本大学院では実験機材も整っており、多角的な視点で機材をフルに活用して実験できます。

大山ゼミでは中枢・末梢の神経系や筋、靭帯の機能や構造、相互作用について電気生理学や運動生理学的な視点で、実験を通して解明していこうとしています。今回、大山ゼミでの研究内容を紹介したいと思います。

手および前腕部の重度損傷例に対する術後リハビリテーションにおいて、一定期間の術後固定や筋腱移植および移行術後、いかにして効果的に筋収縮を促し、筋力を向上させるかが課題でした。筋活動は筋長、関節肢位、モーメントアームの変化に伴って増減し、筋活動は前腕肢位によって変動することが知られています。そこで、前腕の尺側手根伸筋と長橈側手根伸筋を被験筋として、前腕回内位と回外位の2肢位を設定しました。最大随意収縮時の筋活動の制御メカニズムおよび制御部位を経頭蓋磁気刺激と電気刺激を用いて記録し、2肢位で比較しました。

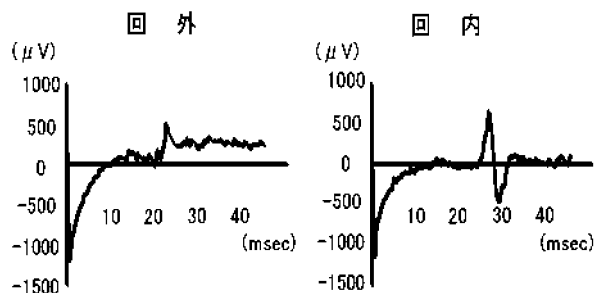
結果として、尺側手根伸筋と長橈側手根伸筋から導出された運動誘発電位(MEP)波形の振幅は前腕回外位に比べ回内位で増大していました。

2筋の%MEPの平均値を前腕回内外肢位で比較してみると、前腕回内位における%MEPの平均値は回外位の値の約2倍を示しました。

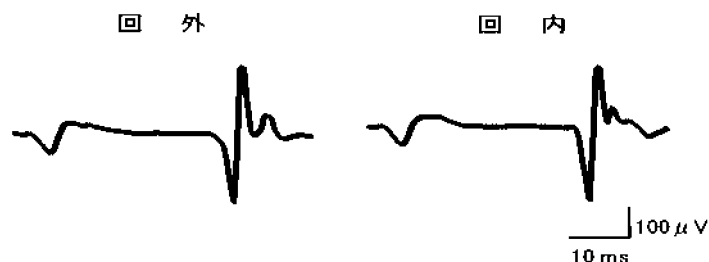
また、長橈側手根伸筋のH波の振幅は、前腕回内外肢位の違いによる差は認められませんでした。



「経頭蓋磁気刺激の風景」



「長橈側手根伸筋のMEP波形」



「長橈側手根伸筋から導出されたH波形」

※H波は脊髄レベルでの運動ニューロンの興奮性を示す

これらの結果から、磁気刺激によって導出したMEPの振幅は2筋ともに前腕回内位で大きくなる傾向を示しました。また長橈側手根伸筋から導出したH波においては前腕回内外の肢位間では差を認めませんでした。これらのことは、長橈側手根伸筋のHの振幅は脊髄レベルで制御されている訳ではなく、前腕からの感覚入力が神経ネットワークの活動に変化を与え、錐体路細胞の興奮性に影響を及ぼしている可能性が高いことを示唆していると考えられました。よって、長橈側手根伸筋の筋活動は、前腕回内肢位が錐体路細胞の興奮性に貢献して、長橈側手根伸筋の運動出力に対して何らかの影響を与えた結果生じている可能性があると考えられました。また、回内位でのH振幅の増加により関節肢位を応用した筋再教育法を確立するうえでの基本的な根拠になると考えています。

以上が研究内容です。得られた研究成果や科学的根拠が臨床の一助となるように日々努力しております。少しでも興味がある方は、是非遊びにいらして下さい。

「基礎ゼミ」「学生・教員交流会」の紹介

基礎ゼミ I を振り返って

医療技術学部 理学療法学科1年 古谷野 太貴

僕たち地神ゼミのメンバーは、羽入君、笠舛君、浦野さん、仙道さん、山岸さんと僕、古谷野の6名で構成されています。僕たちの初めての出会いは忘れもしない入学式ときの朱鷺メッセで、緊張のためかほとんど誰もしゃべらないような感じでした。

しかし、ゼミ担当の地神先生がそんな僕たちの気を察して、話題が尽きないようにとその場を盛り上げてくださいました。そんな先生の気配りもあって、基礎ゼミの授業を通じて他のメンバーともだんだん打ち解けることができました。

4月23日に理学療法学科内のスポーツ交流会でソフトバレーボールを行いました。僕たちのチームは初めてのころはまったくかみ合わず連敗してしまい、誰もがもうだめだとあきらめかけていました。その時バレーボール経験者の山岸さんが「3本つながないからダメなんだよ!!」とチームに喝を入れてくれたおかげでみんなが奮い立ち、その後の劇的な勝利で決勝トーナメントに進めたことが一番の思い出です。今にして思えばあの瞬間から僕たちのチームの絆が深まったように思います。

また、2回目の交流会としてバーベキューを行いました。肉・えび・焼きそば・マッシュマロなどを買って、みんなで焼いて食べました。マッシュマロが内側から溶けていく様子にはびっくりしました。これらの交流会を通じて他の



ゼミとも交流がもて、今まで話したことのない友人と話すきっかけとなりました。

毎週のゼミ活動で一番に印象に残っているのは、他の先生のゼミと合同で行ったNASAゲームです。その頃は僕たちのゼミもいざ討論になると、積極的に話すことができずにいましたが、他のゼミはもっと静かだったので逆に自信を持って討論することができました。このグループワークを通じて、誰かがまとめなければ話が進まないこと、誰もが積極的に発言できるような雰囲気を作ることの重要性、個人の意見だけを尊重していくのではなくみんなの意見を集約することでより良い結果を生むことなどを知ることができました。

大学生活での四年間、このゼミの仲間とともに、地神先生のような明るく話しやすい理学療法士を目指してがんばっていきたいです。



教員・学生交流会について

医療技術学部 作業療法学科1年 祖山 瞳

8月9日に今年度第2回目のオープンキャンパスが行われ、午前の部と午後の部が終わった後に、作業療法学科1・2年生と先生方でバーベキューを行いました。

オープンキャンパスの各プログラムは私達1年生が主体となって行い、その間にバーベキューの道具や100人分の食料の準備を2年生がしてくれ、オープンキャンパス終了後は私達も手伝いに参加しました。天気も良く、みんなで楽しくバーベキューをすることができました。また、1年生同士だけでなく2年生や先生方も話しをすることができてとてもいい機会でした。毎年、作業療法学科は8月のオープンキャンパス終了後に1・2年生・教員で交流会（バーベキュー、すいか割りなど）を開催しており、2年生は主に先頭に立って企画をするということだそうなので、来年は私達がしっかり企画をして、みんなが楽しめる交流会にしたいと思いました。

今年の作業療法学科の1年生は「元気だ」とか「個性的な人が多い」などと言われています。高校時代に運動部で頑張っていた人やスポーツが好きな人が多いためみんな多少のことでは疲れません。なのでバーベキュー終了後もみんなで掛けりをしたりして走り回っていました。その一方で私達は、物事に対してみんなで話し合い、団結して乗り越えていこうとする仲の良い学科でもありま



す。テスト期間には、大学の食堂に残って勉強し、わからなところを教えあったり、辛い時には励ましたり、励まされたりしながらみんなでテスト合格に向けて頑張りました。作業療法学科のみんなはとても大切な仲間です。

それに加えて、先輩や先生方も私達に勉強や大学生活について親身になってアドバイスをしてくれます。大学生活が始まったばかりの不安な時期には先輩や先生方に相談をして話を聞いてもらいました。

大好きな作業療法学科のメンバーと頼りになる先輩や先生方とでバーベキューを通してまた一つ思い出を作ることができ嬉しく思います。これからも一つ一つみんなとの思い出を増やしていきたいです。



交流会を通じて得られたもの

医療技術学部 言語聴覚学科1年 五十嵐 沙羅

わたしたち言語聴覚学科では基礎ゼミIでソフトバレーボール大会を行いました。基礎ゼミIでは言語聴覚学科の学生を8グループに分け、各ゼミから代表者2名ずつを選出して大会を行うための打ち合わせなどをしました。大学では、自分たちで計画を立てる場面も多く、ただ指示を待つだけではいけないということを痛感しました。

6月4日、当日は言語聴覚学科の先生たちと一緒にみんなで机を囲んで昼食をとりました。普段、わたしたちはいろいろと指導してもらい立場なので先生とご飯を食べるのは少し緊張していましたが、なごやかな雰囲気もあり、とても楽しかったです。ソフトバレーボールは初めてでしたが、バレーボールよりボールが扱いやすくておもしろかったです。始めた時はみんなもそんなに乗り気に見えなかったのに、ゲームをしているうちにだんだん本気モードに入っちゃってる感じでした。でも、それ以上に先生たちがはしゃいでいるようで「明日は筋肉痛かも…」と心配しながらも学生以上に活躍して

いました。ちょっといつもは見られない先生たちの一面を見た思いです。そんな先生たちに負けられないと、自分たちの出番ではないときにもコート外で自主練習をするなど、みんなも触発されて更に熱くなっていました。結果は…私たちのグループはあまり芳しい成績とはいえないものでしたが、久しぶりに身体を動かしたので終わった後はなんだか心地良かったです。

基礎ゼミのグループは、最初から決められていたメンバーなのでいつもはあまりおしゃべりをしない人たちでも話す機会ができて良かったと思います。自分で友達を探すことも大切ですが、いろいろな意見や見聞を得るためにはこのように、決められているグループの中で話し合いをすることも勉強のひとつなのだと思います。この大学に入学してから半年が過ぎようとしています。これからの大学生活はまだ3年と半年もありますが、同じ目標である言語聴覚士を目指す仲間と勉強も遊びも頑張っていきたいと思います。



義肢装具自立支援学科のBBQ大会

医療技術学部 義肢装具自立支援学科1年 瀧野 翔太

5月7日、この日は義肢装具自立支援学科の一大イベントともいえるバーベキュー大会が行われた。

今でこそ皆仲良くやっているが、この当時は入学してまだ一ヶ月ほどしか経っていないということもあり、そこまで皆と仲がいいとは言えなかった。またゼミの先生ともまだそこまで親しくはなかった。そんな状況だったので、楽しい会になるのかとても不安だった。しかし結果から言えば、大成功だったのではないかなと思う。

自分は買出し係だったので、2限目が終わったらすぐにゼミの先生の所に向かった。買出しに行く車中では友達と直前までやっていった授業の話や、ゼミの先生にいろいろ質問したりしてすぐに親しくなることができた。

バーベキュー場に到着してからは大学の中では決して見ることができない皆の一面を見ることができた。家事が出来なさそうな人が意外に料理が上手かったり、おとなしそうなのに意外にバーベキューに慣れていたり今まで抱いていたイメージがいい意味で壊された。

みんなで協力して作った昼ごはんは肉が少し焦げてようが、野菜が半分生だろうが美味しかったし、先生も交えて色々話をして食べることは楽しかった。その結果、ゼミの結束が一段と強くなった。

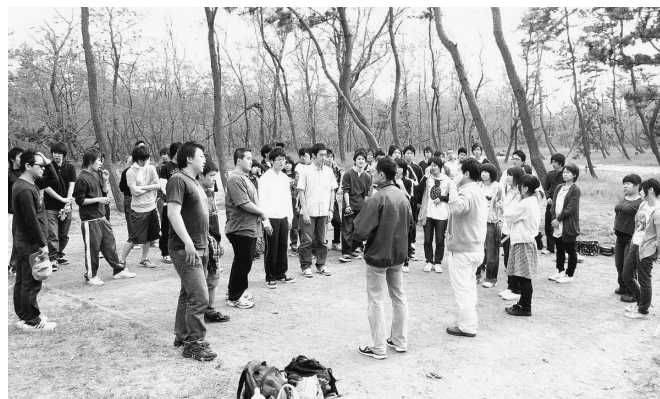
また他のゼミのところに遊びに行って食べ物を貰ってき



たり、他のゼミの人が遊びにきて食べ物をあげたりするなどして、今まで話したことのなかった人と仲良くなることができた。

義肢装具自立支援学科では二年生も自由参加としたこともあって、今まで話す機会がなかった二年生の人たちと話せるようになったり、あまり話したことがなかった先生とも冗談を交わせるようになった。今回のバーベキュー大会を通して学科全体の空気がよくなり、先生や生徒たちが一つになれた気がした。私は、今回のバーベキュー大会をおこなってから仲良くなれた友達が何人もいる。それまで話したことがなかった先生とも今では普通に話せるようになった。ゼミ内の雰囲気もとてもよくなった。

今回のバーベキュー大会を通して、良好な人間関係を築くことができた。それが、今回のバーベキュー大会の一番の収穫だと思う。



「基礎ゼミ」「学生・教員交流会」の紹介

デイキャンプから学んだ“チームワーク”

健康科学部 健康栄養学科1年 佐藤温美

私たち健康栄養学科は、先生方や同じ学科の学生との交流を深めるために、海辺の森キャンプ場でデイキャンプを行いました。デイキャンプ当日は汗をかくほどの晴天にも恵まれ、ゼミごとに自分たちで作成したメニューを調理して食べたり、宝探しゲームをして、大いに盛り上がりました。調理をしていく中で、今まではあまり話したことのなかった人ともたくさん話すことができました。また、ゼミのメンバーの中で「昼食の完成」という同じ目標に向かって分担したり譲り合ったりと、普段の机に向かっての授業では決して学ぶことができない、貴重な体験をすることができ、とても充実した一日となりました。

近年、医療の現場では、チームワークが重要視されています。それではチームワークとは何でしょうか。辞書で調べてみると、“共同作業”、“一団の人々の連帯”と書いてあります。医療の現場で、医師だけでは仕事ができないと同様に、私たちは学校やアルバイト先など生活のあらゆる場面で共同作業、つまりチームワークを必要とします。例えば、実習の授業においては実験者と被験者が必要であり、その両方が互いに協力し合うことで初めてその実習を成功させることができます。また、飲食店のアルバイト先では、厨房で料理を作る人と、その料理をお客さんのもとへ運ぶ人が互いに協力し合うことで初めて接客となるのです。

大学生になるまでも、中学校での合唱大会や高校での体育祭など、チームワークを発揮すべき場はたくさんあったと思います。しかし大学生になると、団体で行う行事は少なくなり、団体としての連帯感は希薄なものとなるのではないのでしょうか。私はデイキャン

プに参加したことで、チームワークの大切さを再確認することができ、同時にコミュニケーションの必要性を肌で感じることができました。

今後この大学で学んでいく中で、チームワークはよりいっそう重要なものとして位置づけられていくと思います。私はこのデイキャンプで培ったチームワークとコミュニケーション能力を最大限に発揮し、大学生活をより充実した、実りあるものにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このデイキャンプを企画、運営してくださった諸先生方、本当にどうもありがとうございました。



健康スポーツ学科ソフトバレーボール大会

健康科学部 健康スポーツ学科1年 田畑雄大

私たち、健康スポーツ学科は5月21日に学生・教員交流会として、ソフトバレーボール大会を行いました。

開会式では、学科長のあいさつ、試合相手、交流会の流れの確認をし、次にゼミごとに第1体育館、第2体育館に別れ、ルールの確認や練習をした後、試合を開始しました。

ルール上、コートには二人ずつしか出られないにも関わらず、健康スポーツ学科の学生ということもあり、スパイクやブロックなど素晴らしいプレーをしている学生がたくさんいて、どこのゼミもレベルが高く、とても白熱した試合が各コートで行われていました。各ゼミでは先生も一緒になって試合をしたり、応援や作戦をたてたりなど、学生たちだけでなく先生も一緒になってとても盛り上がっていました。

健康スポーツ学科は人数が多く、第1体育館、第2体育館に別れて試合をしたため、全てのゼミと試合をすることはできませんでしたが、私は今回の交流会で、ゼミのメンバーだけでなく、同じ学科であまり話したことの無い人と話すことができ、また、授業以外で先生と話す機会を持ってとてもよかったですと感じました。試合はゼミごとの対戦だったため、チームワークをより一層深めることができました。私のゼミはチームワークやメンバー一人一人の活躍があり、なんと決勝戦まで勝ち進みました。残念ながら優勝こそは逃しましたが、準優勝を遂げることができました。とても楽しく、そしていい試合が出来たと思います。また、私たちが授業で学んだ、レクリエーションの概念の一つである、人と人とのかかわりを豊かにする、という点も体験できたように感じました。

入学し、大学生活にもやっと慣れ始めた時期での交流会だったので、この会を通じて先生や学生同士の親睦を深めることができ、これからの大学生活をより充実させるきっかけになったと思います。とても楽しく、白熱した交流会でした。



基礎ゼミ全体会の感想

健康科学部 看護学科1年 志田祐貴

私が入学して間もない頃、基礎ゼミⅠの時間を利用して、基礎ゼミ全体会が開かれました。基礎ゼミ全体会とは、看護学科内の学生だけでなく、先生方も交えて交流を深めるために催されたもので、ゼミのメンバーとその担当の先生が1つのグループになってレクリエーションを行うというものでした。

失礼かもしれませんが、そのころまだ同じ看護学科の同級生や先生方の顔と名前があまり一致していなかった私にとっては、基礎ゼミ全体会の前は不安でもありましたが、これから4年間通してお世話になるであろう仲間たち、先生方とこういう場をもうけさせていただいたことに感謝の気持ちと、なによりも、みんなと仲良くなれることがとても楽しみでした。

レクリエーションは各ゼミ対抗で行われました。様々なレクリエーションが行われた中で、特に心に残っているのが、「先生探し」です。これは、先生方の名前が書かれた紙を持って、体育館のあちこちにいる先生を探し、各先生方のサインを制限時間内にどれだけもらえるか、というものでした。ゼミのメンバーでサインをもらいに行く先生の紙を分担し、よし探そう、と思ったところまではいいのですが、これがなかなか難しいのです。なぜなら、この短期間でお世話になった先生の顔しか分からないのですから。なんて失礼なのでしょう。ですが、多分そんなことはみんな同じだったのだらうと思います。まずは確実に知っている先生からサインをもらいに行くわけで、残った紙は知らない先生の名前ばかり。こうなるともうゼミのメンバーに相談しにいづくしかありませんが、それでも分からなかったのなら、もう各ゼミの壁だけでなく、一人ひとり

の壁もなくなっていて、みんながみんなに聞きに行ったり相談したりして先生を探す、というような感じにいつの間になくなっていました。ゼミ対抗のレクリエーション的にはどうだろう、という感じもしますが、これはこれでとても良かったのではないかと思います。

今思えば、多少相違はあれど、みんなが同じ夢をもって集まって、この看護学科ができています。この仲間たちと4年間、いや、社会に出ても支え、励まし、協力していきたいと思えました。この基礎ゼミ全体会で得たものはとても大きかったです。みなさんお疲れ様でした。そしてこれからもよろしくお願いします。



交流会BBQの思い出

社会福祉学部 社会福祉学科1年 柿崎郁美

新潟医療福祉大学に入学したら絶対体験してみたい！と思う行事の一つ。それがこの学科のゼミ全員で楽しむ学生・教員交流会です。毎年バーベキューをやっていて、今年ももちろん交流会の季節がやってきました。

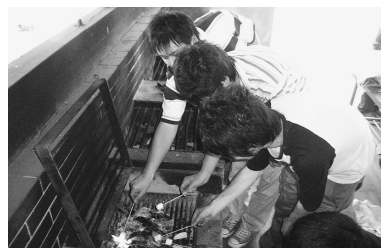
私たちのゼミでは、食材についての話し合いをして、男子が飲み物とゴミ袋担当、女子が肉や野菜担当と協力して食材集めをしました。それから持って来られるものは持って来てもらうということで経費を削減。途中、牛タンやカルビなどちょっと値のはるお肉を買いすぎて予算が足りなくなるというハプニングもありましたが、なんとか交流会当日を迎えました。

当日は晴れで絶好のバーベキュー日和でした。まず、バーベキューをする前に火をおこすまでが大変です。なかなか木や新聞紙に火がつかないけど、お肉のために男子や先生が頑張ってくれました。女子はその間野菜を切ったりして準備完了、いつでも焼ける態勢を整えます。その後は火をつける人と食べる人と焼く人で役割を決め、どんどん食べました。焼きそばやフランクフルトも焼いたのですが、とても美味しかったです。デザート感覚でマシュマロも焼いて食べてみました。こげ目がちょっとつくくらいあぶると、マシュマロが中から溶けてすごく美味しいのです。なによりみんな楽しく食べたことが、美味しく感じた一番の理由かもしれません。

食べた後は木陰で友だちと会話したり、他のゼミの人たちのところで何を焼いているのか偵察してみたりと、自由な時間を過ごしました。私は友だちとバレーをして遊びました。

この交流会で私はゼミのみんなと忘れられない思い出を作ること

ができました。友だちだった人はもっと仲良しに、初対面の人とでもこの交流会では仲良くなるチャンスがあります。また、学生同士だけでなく先生とも仲良くなれたりします。みなさんも入学したらぜひ楽しんでほしいです。



部活動紹介

本学にはボランティア活動についてを学び、そして積極的に行う部活動やグループがあります。今回はその中から2つのグループのご紹介と、第5回新潟県学生ボランティアサミットについてご案内したいと思います。

レクア.コム部

こんにちは!! レクアコム部です。レクアコムとは「レクリエーション(リ・クリエイト=創造) & コミュニケーションの」略でさまざまなボランティア活動を行っています。レクアでは地域の方や子ども、障がいのある方などさまざまな方々と交流を行っており、普段の生活ではあまり関わるのできない幅広い年齢層の人たちと交流することができます。単にボランティア活動を行うのではなく、活動を通じて自己成長を図ることを目的としています。活動をすることにより様々なことに対して考えをもつようになり、成功や失敗を経験し多くのことを学び、一人ひとりが成長できる場としています。また、様々な活動を経験することによって、今まで関心のなかったことに対して興味を持ったり、関心のあることに対して一層興味を深めることができます。

今年度行っている活動は、地元の小学生を対象とした完全学校週5日制対応事業「一休さん」、肢体不自由児を対象に有意義な週末を過ごせるように支援することを目的とした「マーブルチョコ」、地域行事への参加など多くの活動を行っています。「一休さん」では、大学近くにある海辺の森での野外活動や、牛乳パックを使った飛行機づくりなどを行いました。「マーブルチョコ」では、新潟県立養護学校内のウォークラリーやマリンピア日本海での遠足を行いました。これらの活動は、学生が企画から運営まで行っています。地域行事では、学生が多く住んでいる陽光ニュータウンでの「陽光夏祭り」にスタッフとして加わり活動を行いました。

今後予定している活動としては、「全国ボランティアフェスティバルにいがた」、「新潟県学生ボランティアサミット」や地元小中学校の文化祭への参加があります。「全国ボランティアフェスティバル」では「新潟県学生ボランティアネットワークAkyakya」としてイベントへの参加を予定しています。

このようにレクアでは、様々な地域貢献・社会貢献活動を主体的に行っています。これからも、今しかできないことを楽しみながら意識を持って行っていきたいと思います。



学生ボランティアセンター

学生ボランティアセンターとは、ボランティア依頼先とボランティアをしたい学生とを結びつける活動、いわゆるボランティアコーディネーターの活動を学生主体で行っている団体です。学生ボランティアのあり方を確立することを理念とし、地域・国内・海外への貢献、学生の人的成長の機会の増加、ボランティア活動の質の向上を目的として日々活動しています。具体的な活動は、①大学の事務や教授、学生を通してボランティアの依頼を受ける、②メールや掲示物によって全学生を対象に紹介し、ボランティアしたい学生を募集する、③学生とボランティア依頼先との連絡調整を行い、必要であれば学内でオリエンテーションを実施する、④ボランティアの実行、⑤活動記録の作成、会議での報告、という流れに沿って行います。学生ボランティアセンターでは、②でボランティアしたい学生を募集する際に、ボランティアに興味のある学生に効率よくボランティアの紹介ができるよう、メルマガ会員制度を設けています。会員にはメールアドレスと学籍番号、名前を登録してもらい、募集のあったボランティアを随時紹介できるようにしています。



また、ボランティアコーディネートの活動以外に、新潟県学生ボランティアネットワークAkyakyaの活動に参加しています。その活動の一環として、全国ボランティアフェスティバルへのボランティアとしての参加、新潟県学生ボランティアサミットのスタッフとして参加しています。

今後、ボランティア依頼先の方々との連絡を密に取ること、学生ボランティアセンターの役員、メルマガ会員を増加させることで、本学の多くの学生がスムーズにボランティア活動を行えるような環境を作っていきたいと思います。

第5回 新潟県学生ボランティアサミット開催!!

学生ボランティアサミットとは、新潟県内のボランティア活動を行っている学生団体、ボランティア活動に関心のある学生並びにボランティア活動を育成・支援している関係者等が一堂に会し、現状や課題等について研究討議並びに情報交換等を行うとともに、学生ボランティアのネットワークを一層強め、社会貢献活動をより推進することを目的として、今年で5回目の開催となります。

ところで、学生さんの中にこんなモヤモヤを経験、あるいはという方はいらっしゃいませんか? 「ボランティア活動に行った先で、職員や利用者の方となかなか話づらい緊張する」「ボランティア系のサークルに入ったけど活動に出にくい」「団体が上手く機能するにはどうすればいいか悩む」等など…逆に施設や団体、機関などで、学生ボランティアとの関係やその育成に課題(モヤモヤ)を抱えている方はいらっしゃいませんか?

一方で、急激な変動の中で現代を生きる子どもたちは「異なる年齢・立場・存在の人とのかかわり」が大きく不足しているとされ、その解消を目指しさまざまな取り組みがされています。

では、これらに共通していることとは何で

第5回新潟県学生ボランティアサミット

※新潟市社会福祉協議会ボランティア活動助成事業

- 日時：2008年9月28日(日) 10:00~16:00(受付9:30~)
- 会場：新潟医療福祉大学(G棟4階 多目的ルーム)
- 主催：新潟県学生ボランティアサミット実行委員会
(新潟医療福祉大学「レクアコム部」「学生ボランティアセンター」、新潟青陵大学「学生ボランティアバンク」、新潟薬科大学学生有志)
- 対象者：◆県内の学生ボランティア団体又はサークル所属の学生
◆ボランティア活動に興味・関心のある学生
◆ボランティア活動の育成・支援の関係者
◆ボランティア活動に関心のある方
- 内容：レクリエーションなどを通してコミュニケーションの体験的な学び
さまざまな立場の団体・個人との情報交換、ネットワークづくり
- 参加費：無料
- 問い合わせ・参加申し込み：新潟県学生ボランティアサミット実行委員会事務局
hpa05097@nuhw.ac.jp (吉賀)まで (折り返し要項及び申し込み書類をお送りいたします)
- 申し込み締め切り：9月24日(水)

しょうか。その1つに「人間同士の関わり」を基盤としている点が挙げられると思います。そして、この点をスムーズにするためには「コミュニケーション力」が必要なのではないでしょうか。反対から考えるとコミュニケーション力を少しずつでも発揮し合って、スムーズな人間同士の関わりができれば、きっと何かが変わるかもしれません。もしくは、見方が広がるかもしれません。

今回のサミットでは、特にこの「コミュニケーション力」に注目し、参加型の活動を通

して、人間同士の関係づくりのきっかけや良好なコミュニケーションについて体験的な学びを行う予定です。それが多方面のネットワークづくりにつながる情報交換を行います。

このようにして考えると、サミットという名称から連想してしまいがちな「ボランティア好きの人たちの集会」ではないことが分かっていただけますでしょうか。ぜひ、この機会に参加してみませんか。

CAMPUS NEWS

水泳部 井口絵里加選手「オープンウォータースイミング ジャパンオープン2008」で2位の快挙!!

7月20日(日)に千葉県の館山市北条海岸において「オープンウォータースイミング ジャパンオープン2008」が行われ、本学水泳部 井口絵里加(健康スポーツ学科3年)選手が10km女子の部で見事2位入賞を果たしました。「オープンウォータースイミング」とは海や湖など自然の中で長距離を泳ぐレースで、近年、注目を集め始めている競技です。今回はその競技の全日本選手権で、言わば海のマラソンレースでした。

【井口絵里加選手】

「この大会は私にとって初めての経験ばかりの

試合でした。いつも一緒に練習している仲間と離れ、プールではなく海といういつもと違う環境で泳ぐことにとっても緊張していました。10kmは始めてみると思ってたより短く感じ、楽しんで泳ぐことが出来たと思います。今回、競泳以外の新しいことにチャレンジすることができて、とても良い経験をさせてもらったと思っています。これからも挑戦していければと思います。」

【水泳部 下山監督】

「今回は彼女にとって初めてのオープンウォーターのレースでしたが、海のレース経験が豊

富な選手たちを抑え、見事2位に入賞することができました。海が非常に近い本学の特徴を生かして、これから競泳だけでなく、オープンウォーターのレースにも果敢にチャレンジして、日本代表選手を輩出できるよう努力していこうと思います。」



医療福祉職求人説明会

8月22日(金)本学において、「医療福祉施設求人説明会」が開催されました。今年は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士(栄養士)、医療相談・生活相談員職、精神保健福祉士の採用を検討している医療福祉施設、69施設123名の採用担当者をお招きし、4年生約240名が参加しました。当日は高橋榮明学長、就職センター長藤巻健一准教授による挨拶に続き個別ガイダンスを実施しました。採用担当者からは当該施設の説明や本学学生からの

質問に丁寧にお応えいただき、「学生とゆっくり話ができよかった」「職員確保が難しい折、こういう機会ありがたい」と好評をいただきました。また参加した学生からは「遠方ではなかなか訪問できない地域の施設の方と接することができてよかった」、「病院の特色が大変よくわかった」、「OB・OGが来られて現場の声が聞けてよかった」などの意見があり、就職活動が本格化するにあたって、病院・

施設に関する詳細な情報が得られたとともに、今後の進路に向けて大きな収穫を得ることのできた大変有意義な機会となったようです。(本学アンケートより)



真夏の祭典!「オープンキャンパス2008」が行われました!

7月13日(日)、8月9日(土)、9月6日(土)、「オープンキャンパス2008」が開催されました。高橋榮明学長の挨拶からはじまったオープンキャンパスでは、本学の特色や入試について説明する「大学概要・入試概要説明」をはじめ、「学科別説明会」「教員・在学生による個別相談」、「施設見学ツアー」そして、各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に30種類以上にも及ぶ体験プログラムで

は、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある複数の学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体感していただくことができたようです。また、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子や部活動についてなど、よりリアルな新潟医療福祉大学を知っていただくことができました。

本年度のオープンキャンパスは

これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施していますので、機会があれば是非一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。



第8回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

今年度の学術集会は、メインテーマを「義肢装具自立支援とは何か―福祉用具から福祉住環境まで―」とし、研究発表や専門セッションなどのプログラム用意しています。また特別講演として、日本人宇宙飛行士の医学選抜に関与され、NASA官制室やロシア宇宙局でも活躍されている日本大学大学院の宮本晃教授より、最新の航空宇宙医学などについてご講演いただく予定です。参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

第8回 新潟医療福祉学会学術集会

- 日時：2008年10月25日(土)
- 会場：新潟医療福祉大学
- 主催：新潟医療福祉大学 学術集会会長 江原義弘(医療技術学部長 兼 義肢装具自立支援学科長)
- プログラム(予定)：

| | |
|---------------------------|---------------------------|
| 9:30～ 9:45 学会会頭挨拶 | 12:45～13:15 一般演題：口演(同時進行) |
| 9:45～11:45 一般演題：口演 | 13:45～14:45 特別講演 |
| 12:15～12:45 新潟医療福祉学会総会 | 14:45～15:45 専門セッション |
| 12:45～13:15 一般演題：示説(同時進行) | (義肢装具・福祉機器・福祉住環境) |
- 学術集会事務局：新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科 ☎025-257-4606(福田)

学友会

第8回伍桃祭(大学祭)案内

「未来」

～考えよう、私たちの未来・地球の未来～

今年の伍桃祭では、今まで築きあげられてきたものをさらにもう一段階ステップアップし、エコに対する意識を向上させたいと思っています。大学全体でエコに対して意識を持ち、人に優しいだけでなく、環境にも優しい大学を目指したいと思います。また伍桃祭を通して地域の方々にもエコに対して興味を持っていただき、身近なところからエコを意識するきっかけになってほしいと考えています。今までエコについて考えたことのある人もそうでない人も、『未来』というものを考えたとき、身の周りにある問題に気付き、考え、行動していった欲しいという願いをこのテーマを込めました。

伍桃祭では、多くの方が楽しむことができ、また学生だけでなく地域の方々も参加できるイベントを企画しています。また、エコに関するイベントも企画しており、エコについても学ぶことができます。その他にも様々なイベントがあり、多くの出店も立ち並びます。ぜひ、この伍桃祭を通して楽しみつつも、自分たちや地球の未来について考えてみましょう！！

10月4・5日では多くの方々の参加をお待ちしております。

第8回伍桃祭実行委員長 中川拓也

第8回 新潟医療福祉大学「伍桃祭」

- シンガーソングライター
- 「よ日子」さんによる講演会&LIVE
- 各サークルによる発表
- 出店
- ピンゴ大会
- イベント
- Ms.&Mr.発表
- 学科対抗パフォーマンス大会
- フリーマーケット

10/4±5日

この他にも、たくさん楽しいことが待っています。ぜひお越しください！

※詳しくは大学祭HPもしくは本学HPイベント情報をご覧ください。
大学祭HP：<http://gotosai2008.web.fc2.com/>
本学HP イベント情報：<http://www.nuhw.ac.jp/event/festival.html>



受験生のみなさんへ

■募集学科・募集定員(1年次)

| | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 理学療法学科 | 80名 | 作業療法学科 | 40名 |
| 言語聴覚学科 | 40名 | 義肢装具自立支援学科 | 40名 |
| 健康栄養学科 | 40名 | 健康スポーツ学科 | 100名 |
| 看護学科 | 80名 | 社会福祉学科 | 120名 |

■入学試験日程 ※詳細は入試事務室までお問い合わせください。

| 入試区分 | 学科 | 出願期間 | 試験日 |
|----------------|--|--|------------------------------|
| A O 入 試 | 全学科 | 8/25(月)～9/4(木) | 第一次9/13(土) 第二次10/11(土) |
| 公 募 推 薦 | 全学科 | 10/29(水)～11/6(木) | 11/15(土) |
| スポーツ自己推薦 | 健康スポーツ学科 | (前期)10/29(水)～11/6(木) (後期)12/1(月)～12/16(火) | (前期)11/15(土) (後期)12/20(土) |
| 社会人等特別入試 | 全学科 | 10/29(水)～11/6(木) | 11/15(土) |
| センター試験利用入試(前期) | 全学科 | 1/7(水)～1/23(金) | 1/17(土)・18日 |
| センター試験利用入試(後期) | 理学療法学科 健康栄養学科 言語聴覚学科 健康スポーツ学科 | 2/9(月)～2/20(金) | |
| 一 般 入 試 (前期) | 全学科 | 1/7(水)～1/23(金) | 2/2(月) |
| 一 般 入 試 (後期) | 全学科 | 2/9(月)～2/20(金) | 3/1(日) |

※AO入試は出願受付と第1次試験を終了しました。

入試トピックス

一般入試(前期)と一般入試(後期)の試験会場が増えました！

一般入試(前期)はこれまで実施の5会場(新潟・東京・郡山・高崎・長野)に加えて、今年度は新たに「富山」にも試験会場を設置することになりました。また一般入試(後期)には新潟だけでなく「東京」も加わることで、受験の機会がさらに広がります！



イベント案内

■キャンパスツアー

- 第4回/10月 5日(日)
- 第5回/11月 1日(土)
- 第6回/12月 6日(土)

大学概要説明、入試概要説明はもちろん、施設見学、個別相談コーナー等充実のプログラムを用意しています。受験準備も後半戦に入る10月、11月はいよいよ一般入試に向けて、代々木ゼミナール講師による英語対策講座が行われます。また10月は本学大学祭である伍桃祭が同日開催となりますので、この機会にぜひご参加ください。

入試やイベント情報等、詳しくはホームページをご覧ください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地 TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/> 携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

